

東王田池 (ひがしおうだいけ)

位置図



諸元

貯水量	300	千m ³
満水面積	6.7	ha
受益面積	111	ha
堤高	8.5	m
堤長	423	m

県道高松長尾大内線のさぬき市寒川町石田西付近で北側に見えるため池が、王田池と呼ばれる三つのため池です。三つの兄弟池を、西から西王田池、中王田池、東王田池と呼んでおり、三つの大池が平地に美しく並んでいる風景は、珍しく、壮観です。

西王田池、中王田池、東王田池の順に流れるように洪水吐が造られていることから、その順番で江戸時代初期までに造られたと考えられています。東王田池は、最後に水を受けるので、満水時に多量の余水が流れ込むことがあり、下流域では人家の避難騒ぎもあったそうです。

東王田池と中王田池は寒川町に属しており、中でも東王田池は、寒川町内では門入池に次ぐ大池で、そのかんがい区域は町内7地区、町外2地区の111haに及んでいます。

東王田池の総代は、旧来、かんがい面積の大きい寒川町内の新川、橋方地区の2地区から交代で選び、また、池のユル抜きも新川、橋方地区を先行する慣行があります。

ユル抜きを行う場合は、池守あてに文書で「配水手配書」を出し、それを総代並びに副総代が調べ、又は役員会にかけ、その承認を得ることを原則としていましたが、香川用水通水後は、この厳密なユル抜きの手続きも、幾分緩和されるようになりました。

南海地震で堤防の一部に亀裂が入ってから、急速にため池の老朽化が進み、決壊の恐れが生じたため、昭和43年度(1968年)にため池改修工事に着手し、間を置きながら、工事を何回も繰り返し、平成6年度(1994年)に全ての工事が完了しました。現在は香川用水の恩恵を受け、ゆったりと静かに水をたたえています。



東王田池